

炭疽菌について

炭疽は4類感染症に分類される全数把握の疾患で、炭疽菌によっておこる人獣共通の感染症です。

炭疽は感染経路によって皮膚炭疽、腸炭疽、肺炭疽の三つの型に分けられ、自然感染例では95%以上が皮膚炭疽です。潜伏期間は1～7日で、ヒトからヒトへの感染はないといわれています。炭疽菌の検査は塗抹検査（グラム染色、きょう膜染色、）培養検査、PCR（毒素遺伝子、きょう膜遺伝子の検出）アスコリー反応、

ファージテスト等により分離菌の同定を行う。治療にはシプロフロキサシンの投与が推奨されていますが、他のニューキノロン剤も効果的と考えられています。

衛生研究所では昨年10月以降アメリカにおけるバイオテロの影響と思われるいわゆる「白い粉」の炭疽菌検査の依頼が多数あり（表1）検査を行っています。その内訳は、表2のとおりですが、現在までのところ炭疽菌は検出されていません。炭疽菌では抵抗性の強い芽胞が問題になりますが、有効な消毒薬について表3に紹介します。

表1 月別炭疽菌検査件数

検査月	検査件数
2001年10月	18
11月	15
12月	4
2002年 1月	4
2月	3
3月	1
計	45

表2 検査対象別検査件数

検査対象	検査件数
不審郵便物	2
外国からの不審郵便物	4
封書内の「白い粉」	8
郵便ポストの「ピンクの粉」	1
郵便受の「オレンジ及び白い粉」	2
駅構内の「白い粉」	4
電車内の「白い粉」	6
電車外面付着の「灰色の粉」	1
バス内の「白い粉」	4
雑誌・広告付着の「白い粉」	2
路上・駐車場の「白い粉」	5
住宅マンション玄関等の「白い粉」	3
公共施設トイレの「白い粉」	3
計	45

表3 WHOが推奨する消毒薬

0.5%次亜塩素酸ナトリウム
4%グルタールアルデヒド
10%ホルムアルデヒド
1%過酢酸
3%過酸化水素